

日本歯科心身医学会理事長に就任して

日本大学歯学部口腔診断学講座／日本大学歯学部附属歯科病院心療歯科

小池 一 喜

この度、平成27年1月1日をもって浅学非才の身である私が5代目の日本歯科心身医学会理事長に就任することになりました。内田安信 名誉理事長、故 都 温彦 顧問、下岡正八先生、豊福 明 前理事長と錚々たる先達の築き上げてきた功績を継承、発展させる重責を担うこととなり、身の引き締まる思いです。何分不慣れなため、行き届かない面が多く、ご迷惑をおかけすることになるかと思えます。何卒倍旧のお引き立てと御指導をお願い申し上げる次第です。ここで新理事長としての私の抱負を若干申し上げて御挨拶に代えたいと思えます。

日本歯科心身医学会は、我が国の歯科臨床のフィールドにおける、患者の精神や心理の、いわゆる「こころと体の関係についての問題」に、専ら取り組んできた唯一の学会と言えます。多くの先輩方が残した言説のなかに、今日の我々が見習うべき精神があり、誇りとすべき立派な業績があります。これらを範として本学会の発展のために尽力してゆく所存であります。いまさらと笑われるかもしれません。「心身一如」といわれています。しかし、この心身一如の解明が自然科学の物指しで十分には測れていないと、考えています。この領域において先駆的な仕事を行うことが本学会の役目の1つと考えています。近年、他の自然科学分野の雑誌に心身の関連する論文が受理され、掲載されるようになりました。心身医学の医科系の学会が4つと本学会です。どの学会も会員数の減少がみられます。なぜ、会員数が減少するのでしょうか。はっきりいえば、心身医学が若い先生方に魅力がないからと考えます。なぜ魅力がないかといえば、あいも変わらず、「変な患者をみている。」などの偏見がまだまだ存在します。私が若いころと全く同じです。私の努力も足りなかったことを反省しています。私の恩師である故 桂 戴 先生は心身症は精神病理がない患者さんであると常々いっておられました。最近、患者さんの話を伺っていると、患者さんの思いが伝わってきます。歯科心身医学を行うものは、患者さんの物語を聞く努力を惜しんではいけないと考えます。そして、患者さんの物語を聞くためには、治療者自身の「観察する自我」を伸ばすことと、心の安定が必要であると考えます。これを行うことにより、患者さんは私たちを評価してくれるようになると考えます。患者さんから評価されることは、我々にとって嬉しいことです。私はこのような経験を積んで今日に至っております。患者さんから評価される喜びを若い歯科医師に伝えたいと考えております。

本学会のますますの発展に会員の皆様方のお力添えをお願い申し上げます。